

蕃殖期における岩手県五葉山の鳥相 (予報)

柴田 敏隆・村瀬 信義

A Preliminary Report on the Avifauna of Mt. Goyō, Iwate Prefecture, in Breeding Season

Toshi. SHIBATA and Nobuyoshi MURASE

(with 2 pls., 1 text-fig., and 5 tables)

著者の一人柴田は、1960年以来、岩手県下三陸方面の鳥獣類の調査を行ってきたが、現地の研究家遠藤公男、山本弘両氏の御教示を得て、1962年、同地方で野生動物の棲息数が多いといわれる五葉山におもむき、その概略を知るを得た。さらに翌1963年6月には、村瀬と共に、再度五葉山に登り、主として鳥獣類の棲息状況について調査を行った。以下、これらの調査によって知り得た五葉山の鳥相の一部につき、定線調査法によるカウントの結果にもとづいて、その概要を報告する。

五葉山の地形・地誌

五葉山は岩手県釜石市と大船渡市とのほぼ中間に位し、北上山脈の南部、遠野花崗岩塊が大平洋に達するところの東南端に近く、大船渡湾奥より北に約15 km、唐円湾より西11 km、海拔高1341.3 mの山頂を有する、南西～北東方向にほぼ同高度のなだらかな稜線を持つ山である。

この地域一帯は、一般的に山頂部のなだらかな稜線が、五葉山同様南西～北東方向に走り山容は、極めておだやかな老年期特有の地形を示している。ただ、五葉山頂部のみは母岩が露出、巨岩累々として特有の景観を呈している。これらは中生層を貫く花崗岩よりなり、山頂部では、その花崗岩塊を被っていた地層が、浸蝕作用によって除かれたために花崗岩塊が露出し、更に風化によって、巨礫よりなる岩石荒原を、特に南西部稜線上に現出させたものである。

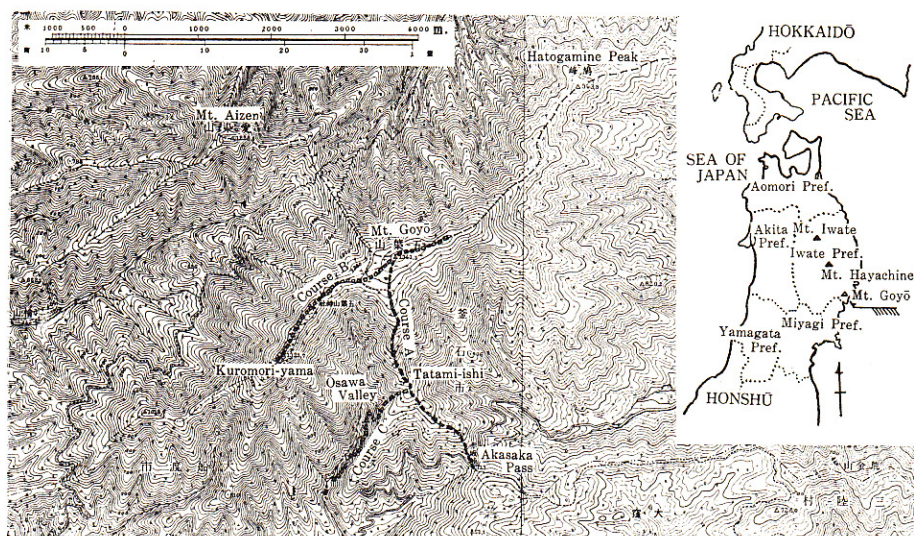
五葉山は北上山脈では早池峰山(1923.6 m)に次ぐ第二の高峰で、山頂には五葉山神社奥宮等が祀られ、古くより信仰の対象としての登山が盛んで往時は女人禁制の山であった。

また、伊達藩の御料林として保護されてきたために、桧、栂、柏などの自然植生が比較的良く保存され、小さいながら深山幽谷の趣を具えている。このために幾多の口碑伝説に豊み、また、東北地方には珍らしくサル、シカ、カモシカ、クマ、タヌキ、キツネなど大型の野生獣が相当数棲息するという。しかしながら、五葉山の動物に関する調査研究は従来ほとんど行われていなかったようで、その動物相の全貌を掴むことは、現在でも甚だ困難である。奥山幹二氏は、五葉山の鳥類として、コマドリ、仏法僧(この場合はコノハズク)および鷹(旧藩時代にその雛を藩主に献上したといい、親鷹は翼を上げると2 mにも達し、兎や小動物を捕えたという。)の三種を挙げている。

五葉山の植生概要

今回は、調査期間全般に亘り、天候不良で遠望がきかず、一般的な植生を概観することができなかったが、以下その概況を述べることにする。

特筆すべきは、不完全ながら山頂部に高山植生を持つことである。山頂部稜線上南西部潜岩、黒



Text-figure 1. 五葉山周辺図 Map of the vicinity of Mt. Goyō

森山方面に花崗岩の岩礫よりなる岩礫荒原が発達するが、この地域には、コケモモ、ガンコウラン、イソツツジ、マンネンズギ、ヒカゲカズラなどよりなる高山植生が発達し、五葉山頂三角点附近の土壌の発達をみる地域には、背の高い (2m 前後) ハイマツを主として、その周辺部あるいは内部にツルツゲ、ナナカマド、カンバを混生する高山性灌木林があり、それらが部分的には退化して直径 2~3m の島状になり、マイヅルソウ、コケモモ、ガンコウラン、イソツツジよりなる荒原とモザイク状の植生分布を示している所がある。

この山頂稜線部をとりまく斜面の母岩岩礫露出地では、亜高山性針葉樹林としてコメツガ、ダケカンバ、ナナカマド、オガラバナなどよりなる樹林がみられる。なおこれとほぼ同様な植生は、山頂北東部にある無人測候所附近、ならびに前記山頂南西部、潜岩、黒森山方面の岩礫荒原植生の下方にわたり小灌木林として存在している。

一方、土壌の発達をみる山頂近く、しゃくなげ荘附近より東南へゆるやかに広がる斜面には、樹高 10~20m に達するダケカンバ林があるが、ハイマツ林と明確には区分されず、林中、部分的にハイマツを含み、ナナカマド、オガラバナ、シロバナジャクナゲ、ウラジロノキよりなる明るい森林が展開している。

これら高山—亜高山植生は海拔高にして、ほぼ 1200m 以上の高さに展開し、亜高山性針葉樹林は 1000m 附近、地形によっては時に 900~800m 附近にまで下降しているのを見る。

山腹の海拔 1000m 以下の部分は、調査コースが赤坂峠 (713m) より壘石 (920m) を経て山頂に至る稜線上と、大沢上流、山頂南西部斜面に限定されたこと、および、赤坂峠—壘石間が放牧などによる人為的破壊を受け、ススキ草原中にニシキウツギ、レンゲツツジなど灌木を混じえる草原が発達し、部分的には、ヒノキ、カラマツが植林され、あるいは二次的灌木林が発達していることなどから、潜在的な植生を把握することは難かしいが、壘石東側にある水場附近の沢に、ブナ、サワグルミ、ダケカンバよりなる林分を認め、同じく壘石西側の大沢上流部の斜面に、かなり発達したブナ、ミズナラ林を認めたので、これら冷温帯落葉広葉樹林が存在するものと思われる。

壘石より大沢に下る途中、各所に樹令 20 年前後の一斉自然回復林を認めた。五葉山の東部および南西部は広く、かつ長時間にわたって人為的影響を受けたものと思われる。

また、大沢の海拔 650m 附近より上流にかけて、サワグルミに代表される湿潤林を認めた。

五葉山および大船渡市の鳥類目録

前述せるとく、五葉山の鳥類については、五葉山日枝神社宮司奥山幹二氏が大船渡教育委員会発行の案内書「五葉山」(1959)に鷹、仏法僧(コノハズク)、駒鳥の三つを挙げている以外に従来の記録をみない。ここに筆者等が1962年10月25~26日の両日、および1963年6月17~21日の5日間に見聞した五葉山および大船渡市内紅葉山公園の鳥類を一覧すると次のごとくである。

五葉山および大船渡市にて記録した鳥類目録

(* は1962年10月25~26日のみの記録)

PASSERES 燕雀目

Corvidae カラス科

1. *Corvus corone orientalis* EVERSMAN ハシボソガラス
五葉山頂 18/VI, '63.
2. *Corvus* sp.
夏虫山麓河内部落 25/x, '62. 天神山公園 17/VI, '63.
3. *Nucifraga caryocatactes japonicus* HARTERT ホシガラス
五葉山頂 20/VI, '63. 18日より三日間の山頂滞在中ただ1回だけ、鳴声と姿を認めた。
4. *Garrulus glandarius japonicus* TEMM. & SCHL. カケス
五葉山頂 20/VI, '63. 全行程中この一回だけの記録であった。

Sturnidae ムクドリ科

5. *Sturnus cineraceus* TEMMINCK ムクドリ
紅葉山公園 17/VI, '63.

Proceidae キンバラ科

6. *Passer montanus saturatus* STEJNEGER スズメ
紅葉山公園 17/VI, '63.

Fringillidae アトリ科

7. *Chloris sinica minor* (TEMM. & SCHL.) コカワラヒワ
紅葉公園 17/VI, '63.
8. *Pyrrhula pyrrhula griseiventris* LAFRESNAYE ウソ
五葉山黒森山 19/VI, '63. 山頂無人測候所附近 20/VI, '63.
- 9.* *Emberiza spodocephala personata* TEMMINCK アオジ
新峠 25/x, '62.
10. *Emberiza cioides cicpsis* BONAPARTE ホオジロ
紅葉山公園 17/VI, '63. 一巣4雛を認めた。赤坂峠 18, 19/VI, '63. 大沢小屋 21/VI, '63. 新峠 25/x, '62,
- 11.* *Emberiza fucata fucata* PALLAS ホオアカ
上甲子 26/x, '62.

Alaudidae ヒバリ科

- 12.* *Alauda arvensis* ssp. ヒバリ ssp.
五葉山頂奥宮 26/x, '62. 採餌中の数羽を認めた。

Motacillidae セキレイ科

13. *Anthus hodgsoni hodgsoni* RICHMOND ビンズイ
赤坂峠 18-19/VI, '63. 畳石 18-19, 21/VI, '63. 五葉山頂一円 19-20/VI, '63.

- 14.* *Anthus spinoletta japonica* TEMM. & SCHL. タヒバリ
河内部落 25/x, '63.
- 15.* *Motacilla grandis* SHARPE セグロセキレイ
上甲子 26/x, '62.
16. *Motacilla cinerea caspica* (S. G. GMELIN) キセキレイ
紅葉山公園 17/VI, '63. 大沢 21/VI, '63.
- Sittidae ゴジュウカラ科
17. *Sitta europeae hondoensis* BUTURLIN ゴジュウカラ
大沢 21/VI, '63. 巣立雛を混じえた一群
- Paridae シジュウカラ科
18. *Parus major minor* TEMM. & SCHL. シジュウカラ
紅葉山公園 17/VI, '63. 五葉山姥石附近 18-19/VI, '63. 大沢 21/VI, '63.
19. *Parus varius varius* TEMM. & SCHL. ヤマガラ
大沢 21/VI, '63.
20. *Parus ater insularis* HELLMAYR ヒガラ
姥石 18-19/VI, '63. 畳石水場 19/VI, '63. 山頂無人測候所附近 20/VI, '63. 潜岩
20/VI, '63. 大沢 20/VI, '63.
21. *Aegithalos caudatus trivirgatus* (TEMM. & SCHL.) エナガ
金比羅祠附近 18-19/VI, '63. 山頂潜岩権現間の岩場 20/VI '63.
- Laniidae モズ科
22. *Lanius bucephalus bucephalus* TEMM. & SCHL. モズ
赤坂峠および畳石 18-19/VI, '63. 畳石 20/VI, '63. 巣と雛を認めた.
- Pycnonotidae ヒヨドリ科
23. *Hipsipetes amaurotis amaurotis* (TEMMINCK) ヒヨドリ
紅葉山公園 17/VI, '63. 新峠 25/x, '62. 大沢 20/VI, '63.
- Muscicapidae ヒタキ科
24. *Muscicapa narcissina narcissina* TEMMINCK キビタキ
紅葉山公園 17/VI, '63. 畳石水場 19/VI, '63. 大沢 20-21/VI, '63.
25. *Muscicapa cyanomelana cyanomelana* TEMMINCK オオルリ
大沢 20-21/VI, '63.
- Sylviidae ウグイス科
26. *Phylloscopus tenellipes* SWINHOE エゾムシクイ
畳石水場 19/VI, '63. 大沢 21/VI, '63.
27. *Phylloscopus borealis xanthodryas* SWINHOE メボソムシクイ
五葉山頂一帯 18-20/VI, '63. 大沢上部 21/VI, '63.
28. *Phylloscopus occipitalis coronatus* (TEMM. & SCHL.) センダイムシクイ
紅葉山公園 17/VI, '63. 大沢小屋 21/VI, '63.
29. *Cettia diphone cantans* (TEMM. & SCHL.) ウグイス
五葉山全域 18-20/VI, '63. 大沢 20-21/VI, '63.
30. *Urosphena squameiceps squameiceps* SWINHOE ヤブサメ
大沢 21/VI, '63.
31. *Locustella fasciolata* (GRAY) エゾセンニュウ

大沢小屋 21/VI, '63. 嘯鳴しながら溪流沿いのスズタケの中を移動.

Turdidae ツグミ科

32. *Turdus dauma toratugumi* MOMIYAMA トラツグミ
赤坂峠 19/VI, '63. 大沢小屋 21/VI, '63.
33. *Turdus sibiricus davisoni* (HUME) マミジロ
大沢 19, 20, 21/VI, '63.
34. *Turdus cardis cardis* TEMMINCK クロツグミ
紅葉山公園 17/VI, '63.
35. *Turdus chrysolaus chrysolaus* TEMMINCK アカハラ
新峠 25/x, '62. 上甲子発電所奥の沢 26/x, '62. 赤坂峠 18-19/VI, '63. 五葉山頂し
ゃくなげ荘附近 19-20/VI, '63.
- 36.* *Turdus naumani eunomus* TEMMINCK ツグミ
新峠 25/x, '63. 五葉山頂 26/x, '63.
- 37.* *Phoenicurus aureus aureus* (PALLAS) ジョウビタキ
新峠 25/x, '63.
38. *Erithacus cyanurus cyanurus* (PALLAS) ルリビタキ
五葉山頂一帯 18, 20/VI, '63. 大沢上部 21/VI, '63.
39. *Erithacus akahige akahige* (TEMMINCK) コマドリ
五葉山頂黒森山. 19-20/VI, '63. 両日共同一場所にて認めた.
40. *Erithacus cyane* (PALLAS) コルリ
五葉山頂一帯 18, 19, 20/VI, '63. 姥石 19/VI, '63. 壘石水場 19/VI, '63.
大沢 20-21/VI, '63.

Prunellidae イワヒバリ科

41. *Prunella rubida rubida* (TEMM. & SCHL.) カヤクグリ
五葉山頂奥宮附近 26/x, '63. 五葉山頂一帯 18, 19, 20/VI, '63.

Troglodytidae ミソサザイ科

42. *Troglodytes troglodytes fumigatus* TEMMINCK ミソサザイ
壘石水場 19/VI, '63. 大沢 20/VI, '63.

Hirundinidae ツバメ科

43. *Delichon urbic dasyptus* (BONAPARTE) イワツバメ
大船渡市内 17, 18, 21/VI, '63. 五葉山頂 18/VI, '63.
大船渡市内盛駅前の人家軒先に多数の営巣を認めた.

CYPSELI 雨燕目

Apodidae アマツバメ科

44. *Apus pacificus kurodae* (DOMANIEWSKI) アマツバメ
五葉山頂 18, 19/VI, '63.

CAPRIMULGI 怪鷗目

Caprimugidae ヨタカ科

35. *Caprimulgus indicus jotaka* TEMM. & SCHL. ヨタカ
大船渡市内 17/VI, '63. 大沢小屋 21/VI, '63.

PICI 啄木鳥目

Picidae キツツキ科

46. *Picus aokera aokera* TEMMINCK アオゲラ
大沢小屋 21/VI, '63.
47. *Dendrocopus major hondoensis* (KURODA) アカゲラ
豊石水場 19/VI, '63. 大沢 20/VI, '63.
48. *Dendrocopus kizuki nippon* (KURODA) コゲラ
紅葉山公園 17/VI, '63. 育雛中の巣を認めた.

CUCULI 杜鵑目

Cuculidae ホトトギス科

49. *Cuculus canorus telephonus* HEINE カッコウ
紅葉山公園 17/VI, '63. 赤坂峠 18, 19/VI, '63. 豊石 19, 20/VI, '63.
50. *Cuculus saturatus horsfieldi* MOORE ツツドリ
赤坂峠 19/VI, '63. 豊石 20/VI, '63.
51. *Cuculus poliocephalus poliocephalus* LATHAM ホトトギス
紅葉山公園 17/VI, '63. 赤坂峠 18, 19/VI, '63. 豊石 20/VI, '63.
五葉山頂 18, 19/VI, '63. 大沢 21/VI, '63.
52. *Cuculus fugax hyperythrus* GOULD ジェウイチ
紅葉山公園 17/VI, '63. 赤坂峠 19/VI, '63. 豊石 18/VI, '63. 五葉山頂 20/VI, '63.
大沢 20, 21/VI, '63. 大沢小屋 21/VI, '63.

ACCIPITRES 鷲鷹目

Accipitridae ワシタカ科

53. *Milvus migrans lineatus* (GRAY) トビ
紅葉山公園 17/VI, '63. 赤坂峠 18/VI, '63.

COLUMBAE 鳩鴿目

Columbidae ハト科

54. *Streptopelia orientalis orientalis* (LATHAM) キジバト
紅葉山公園 17/VI, '63. 五葉山頂しゃくなげ荘附近 19/VI, '63.

LALI 鷗目

Lalidae カモメ科

55. *Larus crassirostris* VIEILLOT ウミネコ
大船渡市内 17/VI, '63. 市内盛町附近の水田に多数を認め、市内上空を飛ぶものも多い.

GALLI 鶉鷄目

Phasianidae キジ科

56. *Phasianus colchicus* ssp. キジ
紅葉山公園 17/VI, '63.
57. *Phasianus soemmerringii scintillans* GOULD ヤマドリ
五葉山頂 26/x, '63. 赤坂峠 19/VI, '63. 共に姿を認めた.

蕃殖期における棲息状況

前記目録にあげたような各鳥類が五葉山には、どのような環境の下に、どのような種類が、どのくらいの数で棲息しているか、その概略を掴むために、定線調査法による個体数算定を行ったので、その結果について考察を進めることとする。

調査の方法

地図上に一定のコースをとり、そこを一定の速度で歩きながら、進行方向に対し、左右両側より前方に出現した鳥類を、コースの両側それぞれ 50 m の範囲内を一応のめやすとして、その種類および個体数を算えた。算定は柴田村瀬 2 名協同して当り、疑わしきはずべて除外した。また視認確認および嘔鳴 (Territory song)、地鳴、性別および老幼の別などを可能な限り区別した。遠方で嘔鳴している個体や上空を高く飛翔している種類は一応もれなく記録したが、算定数には加えなかった。

この算定数は、その地域の棲息鳥類全個体数を示すものでは決してない。観察時の天候、時間、鳥の種類による習性の相違 (目につきやすいとか、つきにくいとか)、あるいは同じ種類であっても、採餌中であつたり、ものかげに静止していたりなどして、こうした要因から目につかないものが必ずあろう。そうした意味からも、この数は、各種類の相対的な多さを示す一つの目安に過ぎない。

また各種類毎に、その行動範囲が異なり、目につきやすさも、鳥自身の習性や環境 (例えば森林と草原など) によって著しく異なるものであるから、算定の範囲を、コースの左右 50 m と厳密に限定しても、その結果が、単位面積当りの鳥の多さを精確に、相対的に示すものとはいえない。しかし、ここでは、それ程の厳密さを必要としないと考えたので、一応調査コースの左右 50 m の線を基準に、環境によつては多少の幅をもって算定に当った。

さらに、調査の時間によって、算定数に著しい相違が生ずることが多い。今回の調査に当っても、各コースについて、前日の午後にコースの下検分を兼ねて予備カウントを行ったが、その結果は、例えば、嘔鳴によらなければ算定のむずかしいビンズイとか、森林性の種類の幾つかは、午後になると著しく算定が困難になることが明瞭であつたので、本調査はすべて、各種類共平均に活動の活発な早朝、午前 4 時頃より 8 時迄の間に行った。

天候は、良好ではなかったが、各調査時間共、比較的似たような天候条件であつたのは幸であつた。

コースの撰定に当っては、環境条件、例えば、標高、傾斜、特に植生との関係を重視したが、全く初めての調査であり、参考に供する植生関係の資料もない状況であつたので、一応、山頂に至る各方面からの登山コースの中から、A. 赤坂峠より壘石、姥石を経て山頂に至る。B. 山頂部東北方、無人測候所より、1341.3 m の三角点を経て、潜岩、黒森山に至る。C. 壘石より大沢の東側斜面を下り、大沢小屋に至る。の三つのコースをとった。

A コースは、赤坂峠 (713 m) — 壘石 (920 m)、壘石 — 姥石 (1100 m)、姥石 — 山頂 (1341 m) の 3 部に大別できる。赤坂峠から壘石までは山腹、稜線共に極めてなだらかなり、そのほとんどがススキ、ニシキウツギ、レンゲツツジ、シモツケ、アズマギクなどよりなる高さ 1 m ほどの草原で被われ、部分的にカラマツが植林されているが生育状態は悪く開放的な林となっている (Pl. XVIII, fig. 8)。赤坂峠附近の斜面は、峠の南側、笠詰山方面と同様、放牧による *grazing* の影響が処々に見られた。壘石附近には僅かながら池塘がみられ、湿潤な平地が 2 ケ所ほどあつた。壘石より姥石までは斜面が傾斜を増し、コースもこの斜面を登るようになる (Pl. XVIII, fig. 9)。植生はやはり人為の影響を受けているが、前者と異り、樹高 8~10 m のミズナラの回復林が発達している (Pl. XVIII, fig. 7)。

姥石より山頂部にかけては再び尾根に出て、ゆるやかな傾斜となり、部分的に 5 m 前後のヒバに被われる場所もあるが、やがてダケカンバ、ナナカマド、ハイマツ、シロバナシャクナゲなどの灌木林となり (Pl. XVII, figs. 3, 4)。山頂部では灌木林は退化して草原状になっている。

B コースは、北東側より山頂部東側にかけて、樹高 8 m 以内のコメツガ林が発達し (Pl. XVII, figs. 5, 6)、山頂部三角点附近は、ハイマツ、オガラバナ、ダケカンバなどよりなる小型のブッシュ

Table 1. 各コース別算定数一覧表

Name	Total	Course A	Course B	Course C
<i>Cettia diphone cantans</i> (TEMM. & SCHL.) ウグイス	52+(51+)	19 (18)	28+ (28+)	5 (5)
<i>Anthus hodgsoni hodgsoni</i> RICHMOND ビンズイ	43 (36)	12 (11)	31 (25)	
<i>Phylloscopus brealis xanthodryas</i> SWINHOE メボソ	22 (21)	8 (8)	14 (13)	
<i>Erithacus cyane</i> (PALLAS) コルリ	11 (10)	3 (3)	4 (3)	4 (4)
<i>Emberiza cioides ciopsis</i> BONAPARTE ホオジロ	11 (8)	10 (7)		1 (1)
<i>Prunella rubida rubida</i> (TEMM. & SCHL.) カヤクグリ	10 (7)		10 (7)	
<i>Turdus chrysolaus chrysolaus</i> TEMMINCK アカハラ	9 (9)	7 (7)	2 (2)	
<i>Erithacus cyanurus cyanurus</i> (PALLAS) ルリビタキ	9 (9)		9 (9)	
<i>Muscicapa narcissina narcissina</i> TEMMINCK キビタキ	7 (3)			7 (3)
<i>Parus varius varius</i> TEMM. & SCHL. ヤマガラ	7			7
<i>Parus ater insularis</i> HELLMAYR ヒガラ	6 (3)	1 (1)	5 (2)	
<i>Aegithalos caudatus trivirgatus</i> (TEMM. & SCHL.) エナガ	5+	3+	2	
<i>Phylloscopus occipitalis coronatus</i> (TEMM. & SCHL.) センダイムシクイ	4 (4)			4 (4)
<i>Turdus dauma toratugumi</i> MOMIYAMA トラツグミ	4 (4)	2 (2)		2 (2)
<i>Parus major minor</i> TEMM. & SCHL. シジュウカラ	4 (1)	1		3 (1)
<i>Lanius bucephalus bucephalus</i> TEMM. & SCHL. モズ	4+	4+		
<i>Cuculus poliocephalus poliocephalus</i> LATHAM ホトトギス	3+(3+)	2 (2)		1+(1+)
<i>Cuculus fugax hyperythrus</i> GOULD ジュウイチ	3 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
<i>Pyrrhula pyrrhula griseiventris</i> LAFRESNAY ウソ	3		3	
<i>Sitta europaeae hondoensis</i> BUTURLIN ゴジュウカラ	3			3
<i>Picidae</i> sp. (TATOOING) キツツキ sp.	3	1		2
<i>Cuculus canorus telephonus</i> HEINE カッコウ	2 (2)	2 (2)		
<i>Erithacus akahige akahige</i> (TEMMINCK) コマドリ	2 (2)		1 (1)	1 (1)
<i>Muscicapa cyanomelana cyanomelana</i> TEMMINCK オオルリ	2 (1)			2 (1)
<i>Cuculus saturatus horsfieldi</i> MOORE ツツドリ	1 (1)	1 (1)		
<i>Urosphena squameiceps squameiceps</i> SWINHOE ヤブサメ	1 (1)			1 (1)
<i>Hipsipetes amaurotis amaurotis</i> (TEMMINCK) ヒヨドリ	1			1
<i>Motacilla cinerea caspica</i> (S. G. GMELIN) キセキレイ	1			1
<i>Picus aokera aokera</i> TEMMINCK アオゲラ	1			1
<i>Dendrocopos major hondoensis</i> (KURODA) アカゲラ	1			1
<i>Garrulus glandarius japonicus</i> TEMM. & SCHL. カケス	1		1	
<i>Phasianus soemmerringii scintillans</i> GOULD ヤマドリ	1	1		
<i>Apus pacificus kurodae</i> (DOMANIEWSKI) アマツバメ	237+(179+)	78+ (63)	111+(91+)	48 (25)
<i>Delichon urbic dasypus</i> (BONAPARTE) イワツバメ		×		
<i>Locustella fasciolata</i> (GRAY) エゾセンニュウ				×
<i>Phylloscopus tellipes</i> SWINHOE エゾムシクイ		×		×
<i>Streptopelia orientalis orientalis</i> (LATHAM) キジバト		×		
<i>Milvus migrans lineatus</i> (GRAY) トビ		×		
<i>Corvus corone orientalis</i> EVERSMAN ハシボソガラス		×		
<i>Nucifraga caryocatactes japonicus</i> HARTERT ホンガラス			×	
<i>Turdus sibiricus davisoni</i> (HUME) マミジロ		×		×
<i>Troglodytes troglodytes fumigatus</i> TEMMINCK ミソサザイ		×		×
<i>Caprimulgus indicus jotaka</i> TEMM. & SCHL. ヨタカ		×		×

× observed but not counted () Territory Song

が点在する草丈 20 cm ほどの草原が展開し、しゃくなげ荘（無人小屋）から五葉山神社附近は、A コース内上部と同じ、ダケカンパ、ハイマツ林があり、さらに西の方、潜岩、黒森山にかけては岩礫荒原となって (Pl. XVII, fig. 1), コケモモ、ガンコウラン、イソツツジなどよりなる高山性矮小灌木植生が拡がり、北側斜面下方、南側斜面にコメツガ林が接している (Pl. XVII, fig. 2)。

C コースは、大沢の左岸に沿った傾斜の急な森林に被われた斜面で、大沢谷底部には樹高 20 m ほどに達するサワグルミ、シデ類、カエデ類に代表される大型湿潤林が発達している (Pl. XVIII, fig. 11)。これより斜面を斜めに畳石まで登る部分では、下方、大沢小屋附近に火災による破壊を受けたと思われる立地に樹高 7 m、胸高直径 5~8 cm の一斉回復林がみられ (Pl. XVIII, fig. 12)、この上方はやがて樹高 20~25 m におよぶブナ林になり、斜面の沢状凹地にはヨグソミネバリを主とし、低木層と草本層の被植の少ない林が、斜面を上下に横切っており、さらに上方畳石に近づく附近では再び人為的破壊および火の入ったと思われる一斉回復林になっている。大沢小屋 (500 m) より畳石 (920 m) まで、その標高差は 400 m ほどあるが、比較的变化の少ない環境である。

結 果

A コースにおいて、ウグイス、ビンズイ、ホオジロ、メボソ、アカハラの 5 種で、全算定数の 70%をしめるので、この 5 種を、このコースにおける代表的な種類と考えてよからう。ただ、このコースは赤坂峠 (713 m) と山頂 (1341 m) を結ぶ稜線に沿ったコースであって、標高差が著しく異なるので、この代表的な 5 種の中でも、メボソは山頂附近の亜高山帯に、ホオジロは赤坂峠附近の低山帯にそれぞれ代表種としてあらわれ、ウグイスはコスモポリタンとして各地域に出現し、アカハラとビンズイはそれぞれ山頂部と赤坂峠附近の傾斜のゆるやかな場所の代表種として出現している。この二種類はどちらかといえば、ビンズイは山頂部に多く、アカハラは山麓部に多い傾向がうかがわれた。

このコースは、五葉山の南側の中心附近を垂直的に概観できる恰好な場所に当るために、カウントしなかった遠方の種類の記録を併せてみると (Table 1 参照)、大略五葉山の鳥相の要と、その垂直的分布の様相を知ることができよう。すなわち、山頂部附近にメボソ、カヤクグリ、ルリビタキなどの亜高山帯の鳥が、山腹の低山帯上部には、コマドリ、コルリ、エゾムシクイ、ミソサザイ、マミジロなどが、赤坂峠附近の低山帯には、ホオジロ、モズ、カッコーなどがみられるのがその特徴である。このことは後述する全体の total をみても大体同様の傾向がみられる。

B コースは、山頂部の海拔 1280 m の等高線以上の北東より南西にのびる比較的起伏のなだらかな地域で、ビンズイ、ウグイス、メボソ、カヤクグリ、の 4 種で全体の 70%を越えるが、この内、コスモポリタンとしてのウグイスを除き、カヤクグリに次いで多いルリビタキを加えた 4 種をこの地域の代表的な種類と見てよからう。

五葉山の山頂は、標高が低いにも拘らず、高山植生を持つことが大きな特徴の一つに算えられるが、鳥相においてもメボソ、ルリビタキ、カヤクグリ、ホンガラス、ウソ、アマツバメ等明らかに亜高山帯から高山帯にかけての種類がみられるのは興味ある事実である。また、ここの高山植生は、北上山脈の中では早池峯山と共に唯二ヶ所だけのもので、奥羽脊梁山脈からも遠くはなれ、まことに局部的、孤立的であるのが特徴であるが、このことは前述の亜高山性の鳥相についても同じことがいえよう。

C コースは、大沢に沿った谷の斜面で、冷温帯性落葉広葉喬木林に被われた地域であるが、キビタキ、ヤマガラ、ウグイス、コルリ、センダイムシクイの 5 種で全体の 68%をしめている。この鳥相は、本州中部の低山帯下部より上部に至る地域にごく普通のものと異ならない。算定はしなかったが、エゾムシクイ、マミジロ、ミソサザイなどを認めたことは、この地域がかなり深山的様相を

Table 2. コース別算定総数に対する百分率 A コース

Course A	%
<i>Cettia diphone cantans</i> (TEM. & SCHL.) Japanese Bush Warbler ウグイス	24.35
<i>Anthus hodgsoni hodgsoni</i> RICHMOND Chinese Tree Pipit ビンズイ	15.38
<i>Emberiza cioides ciopsis</i> BONAPARTE Japanese Meadow Bunting ホオジロ	12.82
<i>Phylloscopus borealis xanthodryas</i> SWINHOE Swinhoe's Willow Warbler メボソ	10.25
<i>Turdus chrysolaus chrysolaus</i> TEMMINCK Brown Thrush アカハラ	8.97
<i>Lanius bucephalus bucephalus</i> TEM. & SCHL. Bull-headed Shrike モズ	5.12
<i>Erithacus cyane</i> PALLAS Pallas's Blue Robin コルリ	3.84
<i>Aegithalos caudatus trivirgatus</i> (TEM. & SCHL.) Japanese Long-tailed Tit エナガ	3.84
<i>Turdus dauma toratugumi</i> MOMIYAMA Tiger Thrush トラツグミ	2.56
<i>Cuculus poliocephalus poliocephalus</i> LATHAM Little Cuckoo ホトトギス	2.56
<i>Cuculus canorus telephonus</i> HEINE Japanese Cuckoo カッコウ	2.56
<i>Parus ater insularis</i> HELLMAYR Japanese Coal Tit ヒガラ	1.28
<i>Parus major minor</i> TEM. & SCHL. Japanese Great Tit シジュウカラ	1.28
<i>Cuculus fugax hyperythrus</i> GOULD Chinese Hawk Cuckoo ジュウイチ	1.28
Woodpecker sp. キツツキ sp.	1.28
<i>Cuculus saturatus horsfieldi</i> MOORE Oriental Cuckoo ツツドリ	1.28
<i>Phasianus soemmerringii scintillans</i> GOULD Honshu Copper Pheasant ヤマドリ	1.28

Table 3. コース別算定総数に対する百分率 B コース

Course B	%
<i>Anthus hodgsoni hodgsoni</i> RICHMOND Chinese Tree Pipit ビンズイ	27.9
<i>Cettia diphone cantans</i> (TEM. & SCHL.) Japanese Bush Warbler ウグイス	25.3
<i>Phylloscopus borealis xanthodryas</i> SWINHOE Swinhoe's Willow Warbler メボソ	12.6
<i>Prunella rubida rubida</i> (TEM. & SCHL.) Japanese Hedge Sparrow カヤクグリ	9.0
<i>Erithacus cyanurus cyanurus</i> (PALLAS) Japanese Bush Robin ルリビタキ	8.1
<i>Parus ater insularis</i> HERMAYR Japanese Coal Tit ヒガラ	4.5
<i>Erithacus cyane</i> PALLAS Pallas's Blue Robin コルリ	3.6
<i>Pyrrhula pyrrhula griseiventris</i> LAFRESNAYE Japanese Bullfinch ウソ	2.7
<i>Turdus Chrysolaus chrysolaus</i> TEMMINCK Brown Thrush アカハラ	1.8
<i>Aegithalos caudatus trivirgatus</i> (TEM. & SCHL.) Japanese Long-tailed Tit エナガ	1.8
<i>Cuculus fugax hyperythrus</i> GOULD Chinese Hawk Cuckoo ジュウイチ	0.9
<i>Erithacus akahige akahige</i> (TEMMINCK) Temminck's Robin コマドリ	0.9
<i>Garrulus glandarius japonicus</i> TEM. & SCHL. Japanese Jay カケス	0.9

帯びていると考えられなくもない。ただ一例ではあったが、北海道に繁殖するエゾセンニュウを認めたことは注目に価する。

Total によって全般的にみると、繁殖期における五葉山の鳥類は山頂部に多いビンズイ、メボソ、カヤクグリ、ルリビタキ、山腹の谷に多いコルリ、キビタキ、ヤマガラ、山裾の平坦部に多いホオジロ、アカハラ、ビンズイ、それに全山に広く分布するウグイスの 10 種類によつて量的に代表され、さらに特色ある種類としてホンガラ、コマドリ、ウソ、エゾムシクイなど深山的な種類をあげることができよう。こうした亜高山的、深山的な種類と、ホオジロ、モズ、アカハラ、エナガなど低山帯下部から山麓にかけてふつうの種類が、かなり不連続的に棲息しているのが五葉山の鳥相の特色といえよう。

Table 4. コース別算定総数に対する百分率 C コース

Course C	%
<i>Muscicapa narcissina narcissina</i> TEMMINCK Narcissus Flycatcher キビタキ	14.58
<i>Parus varius varius</i> TEMM. & SCHL. Varied Tit ヤマガラ	14.58
<i>Cettia diphone cantans</i> (TEMM. & SCHL.) Japanese Bush Warbler ウグイス	10.41
<i>Erithacus cyane</i> PALLAS Pallas's Blue Robin コルリ	8.33
<i>Phylloscopus occipitalis coronatus</i> (TEMM. & SCHL.) Temminck's Crowned Willow Warbler センダイムシクイ	8.33
<i>Parus major minor</i> TEMM. & SCHL. Japanese Great Tit シジュウカラ	6.25
<i>Sitta europeae hondoensis</i> BUTURLIN Honshiu Nuthatch ゴジュウカラ	6.25
<i>Turdus dauma toratugumi</i> MOMIYAMA Tiger Thrushトラツグミ	4.16
Woodpecker sp. キツツキ sp.	4.16
<i>Muscicapa cyanomelana cyanomelana</i> TEMMINCK Japanese Blue Flycatcher オオルリ	4.16
<i>Emberiza cioides ciopsis</i> BONAPARTE Japanese Meadow Bunting ホオジロ	2.08
<i>Cuculus poliocephalus poliocephalus</i> LATHAM Little Cuckoo ホトトギス	2.08
<i>Cuculus fugax hyperythrus</i> GOULD Chinese Hawk Cuckoo ジュウイチ	2.08
<i>Erithacus akahige akahige</i> (TEMMINCK) Temminck's Robin コマドリ	2.08
<i>Urosphena squameiceps squameiceps</i> SWINHOE Short tailed Bush Warbler ヤブサメ	2.08
<i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i> (TEMMINCK) Brown-eared Bulbul ヒヨドリ	2.08
<i>Motacilla cinerea caspica</i> (S. G. GMELIN) Eastern Gray Wagtail キセキレイ	2.08
<i>Picus awokera awokera</i> TEMMINCK Japanese Green Woodpecker アオゲラ	2.08
<i>Dendrocopos major hondoensis</i> (KURODA) Honshiu Great Spotted Woodpecker アカゲラ	2.08

Table 5. 算定総数に対する百分率 (全コース合計)

Total	
<i>Cettia diphone cantans</i> (TEMM. & SCHL.) Japanese Bush Warbler ウグイス	21.94
<i>Anthus hodgsoni hodgsoni</i> RICHMOND Chinese Tree Pipit ビンズイ	18.14
<i>Phylloscopus borealis xanthodryas</i> SWINHOE Swinhoe's Willow Warbler メボソ	9.28
<i>Erithacus cyane</i> PALLAS Pallas's Blue Robin コルリ	4.65
<i>Emberiza cioides ciopsis</i> BONAPARTE Japanese Meadow Bunting ホオジロ	4.65
<i>Prunella rubida rubida</i> (TEMM. & SCHL.) Japanese Hedge Sparrow カヤクグリ	4.22
<i>Turdus chrysolaus chrysolaus</i> TEMMINCK Brown Thrush アカハラ	3.79
<i>Erithacus cyanurus cyanurus</i> (PALLAS) Japanese Bush Robin ルリビタキ	3.79
<i>Muscicapa narcissina narcissina</i> TEMMINCK Narcissus Flycatcher キビタキ	2.95
<i>Parus varius varius</i> TEMM. & SCHL. Varied Tit ヤマガラ	2.95
<i>Pars ater insularis</i> HELLMARY Japanese Coal Tit ヒガラ	2.53
<i>Aegithalos caudatus trivirgatus</i> (TEMM. & SCHL.) Japanese Long-tailed Tit エナガ	2.10
<i>Phylloscopus occipitalis coronatus</i> (TEMM. & SCHL.) Temminck's Crowned Willow Warbler センダイムシクイ	1.68
<i>Turdus dauma toratugumi</i> MOMIYAMA Tiger Thrushトラツグミ	1.68
<i>Parus major minor</i> TEMM. & SCHL. Japanese Great Tit シジュウカラ	1.68
<i>Lanius bucephalus bucephalus</i> TEMM. & SCHL. Bull-headed Shrike モズ	1.68
<i>Cuculus poliocephalus poliocephalus</i> LATHAM Little Cuckoo ホトトギス	1.26
<i>Cuculus fugax hyperythrus</i> GOULD Chinese Hawk Cuckoo ジュウイチ	1.26
<i>Pyrrhula pyrrhula griseiventris</i> LAFRESNAYE Japanese Bullfinch ウソ	1.26
<i>Sitta europeae hondoensis</i> BUTURLIN Honshiu Nuthatch ゴジュウカラ	1.26
Woodpecker sp. キツツキ sp.	1.26

Table 5. (Continued)

Total	%
<i>Cuculus canorus terephonus</i> HEINE Japanese Cuckoo カッコウ	0.84
<i>Erithacus akahige akahige</i> (TEMMINCK) Temminck's Robin コルリ	0.84
<i>Muscicapa cyanomelana cyanomelana</i> TEMMINCK Japanese Blue Flycatcher オオルリ	0.84
<i>Cuculus saturatus horsfieldi</i> MOORE Oriental Cuckoo ツツドリ	0.42
<i>Urosphena squameiceps squameiceps</i> SWINHOE Short-tailed Bush Warbler ヤブサメ	0.42
<i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i> (TEMMINCK) Brown-eared Bulbul ヒヨドリ	0.42
<i>Motacilla cinerea caspica</i> (S. G. GMELIN) Eastern Gray Wagtail キセキレイ	0.42
<i>Picus aokera aokera</i> TEMMINCK Japanese Green Woodpecker アオゲラ	0.42
<i>Dendrocopos major hondoensis</i> (KURODA) Honshiu Great Spotted Woodpecker アカゲラ	0.42
<i>Garrulus glandarius japonicus</i> TEMM. & SCHL. Japanese Jay カケス	0.42
<i>Phasianus soemmerringii scintillans</i> GOULD Honshiu Copper Pheasant ヤマドリ	0.42

五葉山においては、低山帯の中部附近の環境が、人為の影響を受けて著しく貧弱になっていることと、全般的にこの部位の傾斜が急で、面積的にも狭いことなどが前述のような分布の特色を示すものかも知れないが、一面、五葉山自体が本州北部の高緯度地方に位置することの要因もおおいに考えられよう。しかし、これらの問題については、予報の段階で云々することを控えたい。

本稿を草するに当って、調査について種々御高配を頂いた大船渡市商工水産課、準備に御力添えを頂いた林野庁の松山資郎技官、日本野鳥の会の金田平氏、調査結果の処理について有益な御教示を頂いた山階鳥類研究所の浦本昌紀博士、調査の便宜を与えられた横須賀市博物館長羽根田弥太博士の各位に対して、あつく御礼を申し上げます。

Résumé

Mt. Goyō (alt. 1341.3 m), is situated in the north-eastern part of Japan, and is the second highest peak, after Mt. Hachine, of the Kitakami range, characterized by the rolling ridges of old age.

Its slopes are gentle, but the summit presents a characteristic pattern of huge cliffs with a spotting of high altitude plants; from here down to an altitude of about 1000 meters there are forests of semi-alpine evergreens; below these the vegetation has undergone considerable human influence, and consists mainly of forests of cold temperate deciduous trees. The mountain used to be well-known for the large number of deer, monkeys, bears, etc. that lived wild there.

Till now no reports have been made on the avifauna of Mt. Goyō. The authors visited Mt. Goyō during the breeding season in June, 1953, and undertook to make a count of the avifauna by traversing three separate courses differing in both altitude and environment.

Fifty-seven species belonging to twenty-four families were counted on Mt. Goyō itself and the city of Ofunato on the southern slope.

The count for the 1963 breeding season is shown in Text-figure 2, in order of prevalence for each course.

On course A, five species *Cettia diphone cantans* (TEMM. & SCHL.) Japanese Bush Warbler, *Anthus hodgsoni hodgsoni* RICHMOND Chinese Tree Pipit, *Emberiza cioides ciopsis* BONAPARTE Meadow Bunting, *Phylloscopus borealis xanthodryas* SWINHOE Swinhoe's Willow Warbler and *Trudus chrysolaus chrysolaus* TEMMINCK Brown Thrush comprised 70% of the total, and can be considered typical of the course. This course ran from the summit of Mt. Goyō to Akasaka pass, and comprized considerable differences in altitude. *Phylloscopus borealis xanthdryas* SWINHOE Swinhoe's Willow Warbler were typical of high altitudes (Sub Alpine Zone), *Emberiza cioides ciopsis* BONAPARTE Japanese Meadow Bunting of low altitudes, and *Cettia diphone cantans* Japanese Bush Warbler were found at both high and low altitudes. *Trudus chrysolaus chrysolaus* TEMM. Brown Thrush and *Anthus hodgsoni hodgsoni* RICHMOND Indian Tree Pipit were found on the gentle slopes near both the peak and the pass. However, there were more Indian Tree Pipit near the peak, and more Brown Thush near the pass.

On course B *Anthus hodgsoni hodgsoni* RICHMOND Indian Tree Pipit, *Cettia diphone cantans* (TEMM. & SCHL.) Japanese Bush Warbler, *Phylloscopus borealis xanthodryas* SWINHOE Swinhoe Willow warbler and *Prunella rubida rubida* (TEMM. & SCHL.) Japanese Hedge Sparrow comprized 70% of those observed, but if we except the cosmopolitan Japanese Bush Warbler and add instead the *Erithacus cyanurus cyanurus* (PALLAS) Japanese Bush Robin, these four species can be said to be typical of the course.

Mt. Goyō is peculiar in having alpine plants in spite of its relatively low altitude, and it is interesting to note that also among the avifauna *Phylloscopus borealis xanthodryas* SWINHOE Swinhoe's Willow warbler, *Erithacus cyanurus cyanurus* (PALLAS) Japanese Bush Robin, *Prunella rubida rubida* (TEMM. & SCHL.) Japanese Hedge Sparrow, *Nucifraga caryocatactes japonicus* HARTERT Japanese Nutcracker, *Apus pacificus kurodae* (DOMANIEWSKI) Kuroda's White-rumped Swift etc. are clearly species normally found at medium to high altitudes (Sub Alpine Zone).

Course C was the slope of a valley along Osawa covered with tall, broad-leaved deciduous trees. Here, too, five species (*Muscicapa narcissina narcissina* TEMMINCK Narcissus Flycatcher, *Parus varius varius* TEMM. & SCHL. Varied Tit, *Cettia diphone cantans* (TEMM. & SCHL.) Japanese Bush Warbler, *Erithacus cyane* (PALLAS) Pallas's Blue Robin, *Phylloscopus occipitalis coronatus* (TEMM. & SCHL.) Temminck's Crowned Willow Warbler) comprised 68% of the birds observed. This avifauna is typical of medium altitude mountain areas. It is however, noteworthy that one specimen of *Locustella fasciolata* (GRAY) Gray's Grasshopper Warbler, which normally breads in Hokkaido, was observed.

The birds of Mt. Goyō can be said to be represented by ten principal species: at the summit, *Anthus hodgsoni hodgsoni* RICHMOND Indian Tree Pitit, *Phylloscopus borealis xanthodryas* SWINHOE Swinhoe's Willow Warbler, *Prunella rubida rubida* (TEMM. & SCHL.) Japanese Hedge Sparrow and *Erithacus cyanurus cyanurus* (PALLAS) Japanese Bush Warbler; in the mountainside valleys, *Erithacus cyane* (PALLAS) Palla's Blue Robin, *Muscicapa narcissina narcissina* TEMMINCK Narcissus Flycatcher, and *Parus varius varius* TEMM. & SCHL. Varied Tit; at the foot of the mountain *Emberiza cioides ciopsis*

BONAPARTE, *Turdus chrysolaus chrysolaus* TEMMINCK Brown Thrush, and *Anthus hodgsoni hodgsoni* RICHMOND Indian Tree Pipit; and finally, everywhere on the mountain, *Cettia diphone cantans* (TEMM. & SCH.) Japanese Bush Warbler.

As characteristic of the area the following mountain-dwelling species can be given: *Nucifraga caryocatactes japonicus* HARTERT Japanese Nutcracker, *Erithacus akahige akahige* (TEMMINCK) Temminck's Robin, *Pyrrhula pyrrhula griseiventris* LAFRESNAYE Japanese Bullfinch, *Locustella fasciolata* (GRAY) Gray's Grasshopper Warbler, and *Phylloscopus borealis xanthodryas* SWINHOE Pale-legged Willow-warbler. It is also peculiar of Mt. Goyō that medium-altitude mountain birds like those just mentioned, and low altitude foothill birds like *Emberiza cioides ciopsis* BONAPARTE Japanese Meadow Bunting, *Lanius bucephalus bucephalus* TEMM. & SCHL. Bull-headed Shrike, *Turdus chrysolaus chrysolaus* TEMMINCK. Brown Thrush, and *Aegithalos caudatus trivirgatus* (TEMM. & SCHL.) Japanese Long-tailed Tit live there without intermingling.

The numbers given here are, of course, simply an indication of the relative occurrence of the various species, as observed on the various courses. In a future report the authors hope to be able to present more accurate conclusions.

参 考 文 献

- 清 棲 幸 保 1952. 日本鳥類大図鑑 I. 講談社: 350 pp.
 清 棲 幸 保 1959. 日本の高山における鳥類分布 原色日本野鳥生態図鑑 I. 保育社: 137~143.
 " " 1941. 高山の鳥 アルス文化叢書 4: 64 Pls. 16 pp.
 小 林 桂 助 1956. 原色日本鳥類図鑑 保育社:
 村 井 正 衛 1959. 五葉山 岩手の山: 28~29.
 奥 山 幹 二 1959. 五葉山 大船渡市教育委員会: 18 pp.
 Orn. Soc. Jap. 1958. A Hand-list of the Japanese Birds 4th & Rev. Ed.: 264 pp.
 柴 田 敏 隆 1963. みちのくの五葉山行 横須賀市博物館雑報 9: 12~19.
 浦 本 昌 紀・塚 本 洋 三 1958. 天城山の繁殖期鳥類棲息状況 野鳥 (23) 4: 32~36.



Fig. 1. 山頂部南西方面，黒森山附近の岩石
高原地帯，夏季はお花島がみられる。
B コースの一部。(1962 年 10 月 26 日撮影)



Fig. 2. 同左，黒森山 (1321.7 m) 西側斜面
ここで岩礫帯は終って，山腹上部の亜高山
性針葉樹林帯に移行する。ビンズイ，ウグ
イス，ルリビタキが多い。Bコースの西端。



Fig. 3. 山頂部南側平坦部 (Alt. 1280 m) の
ダケカンバ，ナナカマド灌木林，白雲の湧
上る大沢をへだてて，潜岩，黒森山方面
(約 1300 m) の稜線を望む。



Fig. 4. 同左ダケカンバ林，ハイマツ，シロ
バナシャクナゲ，ナナカマド，オガラバナ，
ウラジロノキなどが混在する。ウグイスが
圧倒的に優占する。



Fig. 5. 山頂北東部北側斜面上部の樹高の低
いコメツガ林，処々に母岩が露出し，メボ
ソ，ルリビタキ，カヤクグリ，ウソが棲息
する。



Fig. 6. 同左林内，ナナカマド，ダケカンバ，
オガラバナなどが混生する。B コースの
東端。



Fig. 7. 赤坂峠より山頂に至る稜線部 (Aコース) の Alt. 1000 m 附近のミズナラ林, カラ類, コルリ, ウグイスが記録されるが, その数は多くない。



Fig. 8. 赤坂峠 (矢印の鞍部) 周辺の平坦部, 前方右手は笠詣山 (Alt. 885.7 m) 左手は大窪方面。放牧などのために著しく人為的破壊を受けた植生で, ススキ草原中にレンゲツツジなどの灌木を混じ, 稜線にはカラマツの植栽を認める。アカハラ, ビンズイが優占する。A コースの下部。

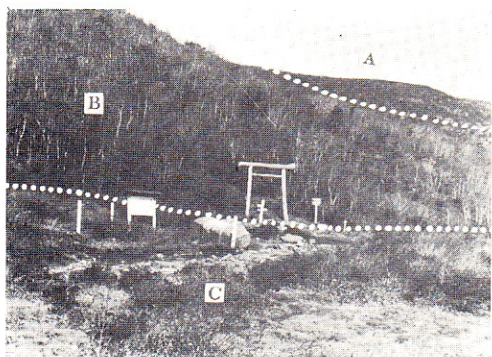


Fig. 9. 畳石より, 山腹および山頂方面を望む, A. 亜高山性常緑針葉樹林帯, B. 山腹の傾斜地で本来, 冷温帯落葉広葉樹林と考えられるが, 現在のミズナラ林は二次的なものである。C. 山裾の平坦地でススキ草原に優小灌木が混在する。

1962 年 10 月 26 日撮影。

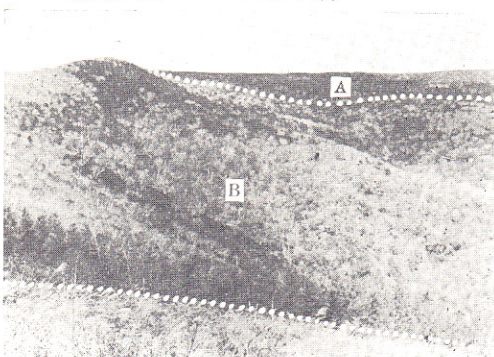


Fig. 10. 同左, 赤坂峠附近より山頂方面を望む, 但し B の黒い部分は, 母岩露出地帯や崩壊した岩石地帯に生える。コメツガ, ヒバなどの常緑針葉樹林。手前のカラマツは植林されたものである。



Fig. 11. 大沢の溪流ぞいに発達するサワグルミ林, オオルリ, センダイムシクイが優占する。エゾセンニュウはここで記録した。(C コース下部)



Fig. 12. 大沢より畳石に至る斜面のヨグソミネバ, ミズナラ, プナなどよりなる落葉広葉樹林, この地域は人為的影響または山火事より一斉に回復しつつある状態を示している。°キビタギが多い。C コース。